

平成29年度学校票（職員自己評価）結果考察（平成29年7月との比較）

1 主な指標の変化

(1) 教師と児童、児童同士の人間関係が深まった	92→97ポイント
(2) 研究課題への取組状況	79→91ポイント
(3) 研修の成果は児童に変容をもたらした	77→84ポイント
(4) 自分の校務分掌の内容を明確に捉えている	83→92ポイント
(5) 学校緑化が計画的に行われた	85→99ポイント
(6) 一斉下校・登校指導・避難訓練・引き渡し訓練の取組	85→94ポイント
(7) 情報機器の整備活用は適切である	88→94ポイント
(8) 道徳、各教科、特別活動は計画どおり指導できた	85→92ポイント
(9) 外国のことや日本文化に興味関心をもたせる指導をした	81→91ポイント
(10) ALTとの活動・交流は適切だった	88→100ポイント
(11) 児童の体力は向上した	90→97ポイント
(12) 放課後の行事予定は適切だった	90→97ポイント
(13) 学校全体及び学年内の情報交換や協力体制は十分だった	94→99ポイント
(14) 環境整備・美化・管理が計画的に進められた	89→94ポイント
(15) 特別教室は整備され活用されている	94→100ポイント
(16) 授業参観やフリー参観の回数・方法・時期は適切だった	92→79ポイント
(17) 学校行事は精選されている	94→87ポイント

2 学校教育目標の具現化に向けた指標の変化

(1) 学校教育目標を理解し、教科等、学校生活に生かした	92→94ポイント
(2) 学校教育目標を学年や学級経営の中に生かした	84→90ポイント

3 学校研究課題の具現化に向けた指標の変化

(1) 学校研究課題・研修計画は適切だった	83→92ポイント
(2) 学校研究課題への取組状況	79→91ポイント
(3) 研修の成果は児童に変容をもたらした	77→84ポイント
(4) 教師自身の向上があった	83→88ポイント

4 次年度に向けての展望

- (1) 学習習慣の育成と定着
 - 家庭学習や読書の習慣
- (2) 学力向上
 - 授業方法の工夫改善（わかりやすい授業）
 - 伸びる児童を更に伸ばす
 - 自分の考えを書く
 - 自分の意見を伝える
- (3) 人間関係を円滑にするためのコミュニケーション能力の育成
 - あいさつや返事、お礼や謝罪の言葉が相手に伝わるように言える